

水中ポンプの流量が難種苗生産種仔魚の 生残率，成長等に及ぼす影響

○池田大起・藤井健太・石橋泰典（近大農）

【目的】難種苗生産種(クエ，クロマグロおよびカンパチ)仔魚の初期飼育に水中ポンプを用いた場合の最適流量を比較した。【方法】流量が異なる試験区を3重複ずつ設けて200 L透明丸底水槽に卵をそれぞれ収容し，10日齢までの生残率等を比較した。各試験区の1分当たり流量は，クエ:0.5，1.0，1.5および2.0 L/分，クロマグロ:3.0，4.5および6.0 L/分，カンパチ:1.5，3.0および4.5 L/分にそれぞれ調節し，飼育水流動はドップラー流速計で測定した。【結果】クエ:1.5 L/分の生残率および体長が最も高くなる傾向を示した。クロマグロ:6.0 L/分の生残率および体長が最も高い値を示した。カンパチ:1.5 L/分の生残率が4.5 L/分より有意に高まり，浮上死率が顕著に減少した。以上の結果，通気と同様にクエおよびカンパチの最適流量が低く，クロマグロは，他魚種より高い流量が必要なことが示唆された。